

科目名	経済学史 I	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学部	□ 必修	■ 選択
			学部	□ 必修	□ 選択
英文表記	History of Economics	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	たにがわ このの	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	谷川 琴乃	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	経済学の歴史的発展を学び、主要な経済理論がどのように生まれ、変遷してきたのかを理解する。				
到達目標	1. 経済学の主要な理論がどのように発展してきたかを説明できる。 2. 経済学者ごとの理論的貢献や学派の特徴を理解し、それらを比較できる。 3. 歴史的背景と経済理論の関係を説明できる。 4. 現代経済学の課題を、歴史的視点から考察できる。				
授業概要	本授業では、経済学史を体系的に学び、経済学の基本概念や理論の発展を理解することを目的とします。まず、各時代の経済思想の流れを全体的に把握し、その後、主要な経済理論の成立過程や発展について詳しく学びます。				
授業計画					
第 1 回	経済学とは何か？経済学史を学ぶ意義				
第 2 回	重商主義と重農主義				
第 3 回	アダム・スミスと古典派経済学				
第 4 回	マルサスとリカードの理論				
第 5 回	マルクス経済学の登場				
第 6 回	限界革命と新古典派経済学				
第 7 回	マーシャルの経済学と部分均衡分析				
第 8 回	ケインズ革命とマクロ経済学の誕生				
第 9 回	戦後の経済学：新古典派総合と IS-LM モデル				
第 10 回	フリードマンとマネタリズム				
第 11 回	新古典派経済学と合理的期待形成				
第 12 回	ゲーム理論と行動経済学の台頭				
第 13 回	21 世紀の経済学：実証分析と現代経済学				
第 14 回	経済理論の総括：歴史から何を学ぶか				
第 15 回	総括				
第 16 回	定期試験				
授業時間外の学習	事前学習：各回の授業前に指定されたテキストの該当部分を読んでおく。(1.5 時間程度) 事後学習：提出された演習問題に取り組み、理解を深める。(1.5 時間程度)				
履修条件 受講のルール	特に前提条件は設けないが、ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	山崎好裕、『おもしろ経済学史 歴史を通した現代経済学入門』，ナカニシヤ出版，2004 年。 野原慎司，沖公祐，高見典和、『経済学史 経済理論誕生の経緯をたどる』，日本評論社，2019 年。 ※別に資料を配布する場合は、授業日までにポータルサイト上へ資料を掲載します。各自パソコン等にダウンロードするか印刷するなどして予習し、授業に持参してください。				
参考文献・資料	講義内で適宜紹介します。				
成績評価の方法	授業態度(10%)、課題(30%)、定期試験(60%)				

	上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日（10：40～12：10） 木曜日（10：40～12：10、13：00～14：30）
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	経済学は、私たちの日常生活や社会の仕組みを理解するための強力なツールです。歴史を学ぶことで、現在の経済理論がどのように形成され、進化してきたのかを深く理解することができます。経済学の理論は、それぞれの時代の課題や社会状況に応じて生まれてきました。その背景を知ることで、現代の経済学が直面している課題や未来の可能性についても考えられるはずです。一緒に経済学の歴史を楽しく学びましょう。